キッズコーナー

小学生、中学生に読んでもらいたい記事をのせています。読めない字があったら、おうちの人に教えてもらってね。

私たちの身近な文化財

描かれた江戸時代の小平 —「小川村地割図」（その２）—

ちょうど1年前にお話しした（その１）の続きです。今回は、もう少し細かい部分を見ていきましょう。

小川村地割図（図３）では水色に塗られた部分は、上水や用水、分水などの人工の水路を表しています。地割図の上下（北南）を左右（西東）に走る水色の帯は、下が今の玉川上水、上が野火止用水にあたりますが、それぞれ「江戸御水道」、「のひとめ水道」と書かれています。この玉川上水から水を分けている小川分水も水色になっていますが、その取り入れ口近くには「のみ水」と書かれていて、これが村に暮らす人たちの生活用水だったことがわかります（図１）。

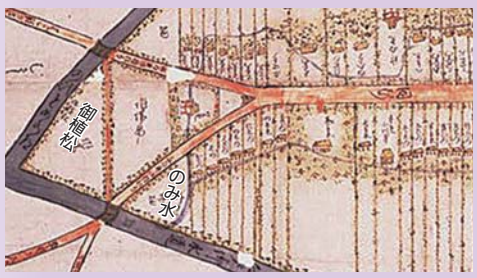

図１　初期の小川分水の流路と松の表現
小川村地割図（部分、加筆）

このころの小川分水は現在とは違い、今の立川通りの南で二股に分かれ、青梅街道の南北両側を東に向かっています。よく見ると街道の北側では小平神明宮のあたりで大きく蛇行しており、ここは今でも図とほぼ同じように蛇行しています。管の中に水圧をかけ水を送る現在の上水道とは異なり、この分水は地形の高低差を利用し配水していたため、窪地など低いところを避けて流していたのです。このことからも小川九郎兵衛が小川村の開発を始めた当時、精密に測量をして、水を上手に流していたことがわかります。分水は村の東端付近で先細りとなって消えていますが、最後には地面にしみ込んでいたのです。

図２　細長い三角形の地割
小川村地割図（部分）

分水の蛇行の様子をはじめ、今の鎌倉街道や府中街道と青梅街道との交差点での食い違いの様子など、現在と一致する部分の多い地割図ですが、一方で野火止用水のＳ字に曲がった部分や、この絵図が作られた時には通っていたはずのたかの街道や五日市街道は描かれていません。しかも青梅街道から分水までの距離と分水から玉川上水や野火止用水までの距離の割合も実際とは大きく違っています。

さらに前回、短冊のように細長い長方形の地割だったお話をしましたが、中央より東側には一部に細長い台形や三角形の地割も見られます（図２）。これは実際には中央の青梅街道がその部分で、わずかに折れ曲がっているためです（図３）。

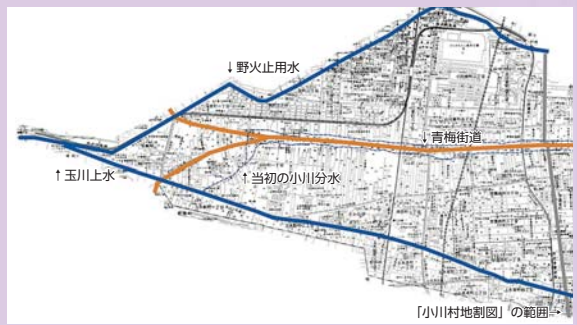

図３　「小川村地割図」の現況

なぜこのようになっているのでしょうか。それは、この絵図が実際の地形を描いた「地図」ではなく、それぞれの地割への村人の配置を示す目的で作られた「絵図」であることを表しているのです。

ところで、地割の西端部分と地割の東側の一部には「（小川新田）作場」「畑」「畠」などの文字が見え、すでにこの部分でも耕作が行なわれていたことがわかりますが、これらを除くと周囲には「むさし野」の文字が見え、武蔵野原の中に開かれた新田の姿がうかがわれます。

図の西側の端付近には「御植松」「両道通二植松有」などと書かれており、玉川上水と野火止用水の岸や道の両脇に並んでいるT字で表されたものは松の木であることがわかります（図１）。玉川上水縁の樹木としては、江戸時代の半ば以降、もっと下流に植えられた桜が「小金井桜」として有名ですが、小川村の部分で、この図ができるより前から村人が松の苗を植え付けており、100年以上後の明和８年（1771）に伐り払われるまでは、松並木があったのです。

このように、この小川村地割図は、江戸時代前期の、開発が始められたばかりの小平のことを教えてくれる貴重な資料なのです。

以下のＵＲＬから、「小川村地割図」で検索し、昔の小平の様子をのぞいてみてください。

https://trc-adeac.trc.co.jp/

〈ADEAC ホームページ〉
スマートフォン用

小学校でボッチャ体験授業を実施しています

令和３年７月から11月にかけて、小平第三小学校、小平第四小学校、小平第九小学校、小平第十四小学校、小平第十五小学校、花小金井小学校の６校でボッチャ体験授業を実施しています。

パラリンピックの正式種目であるボッチャは、ジャックボールと呼ばれる目標球（白球）に、赤、青６球ずつのカラーボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。子どもも、大人も、お年寄りも、障がいのある人も、誰でもプレーできるボッチャを通して、子どもたちの障がい者スポーツへの理解促進につなげたいと考えています。

東京ボッチャ協会の方々を講師にお招きし、子どもたちは楽しみながら初めてのボッチャを体験しています。

始めに、ルールや選手の障がい等についての説明を受け、次に、遠くに置かれた目標球を狙って投げる練習をした後に、３人対３人のチームに分かれて試合を行います。

子どもたちは最初、みんなそれぞれバラバラに目標球を狙って投げていますが、試合を何度も続けるうちに、それだけでは勝てないボッチャの奥深さに徐々に気づいていきます。相手の投球を邪魔するために自身のボールで壁を作る、相手のボールにぶつけて弾くなど、チームみんなで考えて、協力しながらプレーすることで、ボッチャはより楽しめるスポーツになります。

最後には、どのチームからも積極的に意見が出され、短時間の授業の中でも成長していく姿がたくさん見られています。

このボッチャ体験授業は、現在、小平第九小学校、小平第十四小学校で実施済みで、小平第三小学校、小平第十五小学校、小平第四小学校、花小金井小学校の順番で実施予定となっています。

みなさんもぜひ、いろいろな新しいスポーツに挑戦してみてください。

〈文化スポーツ課〉

鈴木遺跡の火をパラリンピックに届けました

東京2020パラリンピック聖火リレーでは、各市区町村で採火した火を一つにまとめて聖火リレーの『東京都の火』とします。

2021年は、鈴木遺跡が国指定史跡となった記念の年であるため、「小平市の火」＝「鈴木遺跡の火」として、鈴木小学校の６年生のみなさんが鈴木遺跡で採火することになりました。

採火式は８月20日の午前８時30分から参加を希望した23人によって行われました。また、それに先立って８月11日と13日には事前に練習をして本番に備えました。

鈴木遺跡の時代である旧石器時代の発火方法とは異なりますが、舞錐という古代の錐を、火切臼という切れ込みを入れた板の上で回転させる「摩擦式」で行いました。

練習の時は、うまく回転させることができなかった児童たちも、本番では練習の成果を発揮して、すぐに舞錐を勢い良く回転させ、何か所もの火切臼から煙が出始めました。切れ込みの中にできた小さな黒い炭の山にそっと息を吹きかけ、でき上がった火種を麻綿にくるんで半分に割った竹筒の中に入れ、強く息を吹き込み、明るい炎が上がると、見学者のみなさんやお手伝いの大学生も含め、みんな大きな歓声を上げていました。

火起こしに成功した人も、しなかった人も心を一つにしてがんばり、東京都に届けるために大きなろうそくにともした火を見送りました。

〈文化スポーツ課〉